

分科会 22

退院支援の原点を考える part2 ～生かそう地域とピアの力～

コーディネーター：中越章乃（神奈川県立保健福祉大学）
小佐野啓（特定非営利活動法人あおば福祉会）
報告者：高野悟史（医療法人財団 青溪会 駒木野病院）
小佐野啓（特定非営利活動法人あおば福祉会）
芹澤和彦（医療法人社団欣助会 吉祥寺病院）
尹聖根（社会福祉法人 はらからの家福祉会）
寒川吟子（社会福祉法人 はらからの家福祉会）

1. 趣旨説明

これまで開催してきた分科会の経過をご説明し、取り上げたテーマなどについてご紹介しました。

2. 研究報告

高野氏からは、特に地域移行支援の申請が伸び悩んでいる現状やピアサポート活動の効果、課題等について、調査結果を用いてご報告をしていただきました。

3. 実践報告

1) 小佐野氏、芹澤氏より

お二人は 25 年近く入院されていた方をともに退院支援され、地域生活のスタートに立ちあわれました。お二人からは、医療と地域生活を支援するスタッフの連携の必要性やその具体的な場面を体験に照らし合わせてご説明いただきました。支援経過の中で所属する機関が異なる各々が、どのような立ち位置や意識でご本人に関わられたのかについても振り返ってご報告いただきました。

2) 尹氏、寒川氏より

お二人は地域移行コーディネーターとライフパートナー（ピアサポーター）としてペアを組んで退院支援をされています。病院で出会ったKさんがお二人と共に退院を目指し、いくつかの困難がありながらも地域での生活を始められた経過をご報告いただきました。寒川さんからはライフパートナーとしての思いも語っていただき、Kさんからはビデオレターで寒川さんへの感謝と充実した現在の暮らしについて語られました。

4. グループディスカッション・全体共有

グループディスカッションでは、①「AがあればBできる」、②「現状で自分ができること」の2つのテーマで話し合っていました。

①は「こんなサービスがあれば生活できる！」「こんな職員がいたら退院したくなる！」等のいわゆる「タラレバ」を語っていただくものです。

そのうえで、②では地域移行支援をおこなうにあたって困難な状況や取り組みにくい地域でありながらも、自分に何ができるのか前向きに話し合っていました。

どうしても迫る課題に目が向きがちな地域移行支援。少しでも前向きに捉えなおす時間になったらいいなと思います。進行役、記録役を担っていただいた皆さん、ありがとうございました。

最後に、グループで模造紙にまとめていただいた内容をご報告いただきました。バラエティに富んだご報告それぞれのグループのものも共感して受け取ることができました。

ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。